

## 中高年主婦の勤労観

Views of Working: The Case of Higher and Middle  
Aged Women

酒 井 ノブ子

Nobuko Sakai

篠 原 冬

Fuyu Shinohara

### Abstract

The present authors<sup>1)</sup> studied the views of women students on numerous aspects of working, and Shiobara and Sakai<sup>2)</sup> followed the same study on the views of men students. This paper, on the contrary, presents the views of higher and middle aged housewives (ranging from 30 to 50 years old) on the working, and our main findings are as follows:

1. Views on working expressed by higher and middle aged housewives can be characterized as the one which is between views of two different groups; namely, average views of all generation (NHK study) and the views of young women (study of the present authors<sup>1)</sup>).
2. Group of higher aged women (older than 45) has, to some extent, different views from that by middle aged (younger than 45).
3. There is also a little difference between the views on working held by housewives with job and housewives without job.

1) N.Sakai and F.Shinohara, "Views of Working: The Case of Women Students," Journal of Home Economics of Japan, vol 29 (no.6) 62. (1978)

2) H.Shiobara and N.Sakai, "Views of Working: The Case of Students," Journal of Home Economics of Japan, vol 33 (no.9) 55 (1982)

## 1. 緒 言

中高年主婦の就業は、30年代後半からパートタイマーという形を中心に急速に増加しているといわれる。<sup>1)</sup> パートタイマーは企業側にとっては有利な面が多く、今後も中高年主婦の就業は歓迎され、期待されるものと思う。また、主婦の側にとっても、パートで働くことは、時間的融通がきき、家庭経営管理にそれ程の支障も来たすことなく、また家計の補助にもなるだろうということもあって、パートタイマーの形で就業する主婦は今後益々増加するものと推測される。

このような主婦の就業状況から考えれば、主婦にとって今日的課題の一つは「家庭内の仕事と家庭外の仕事の接点」の探求であると考えられる。すなわち、主婦の就業は家計を助けるという面では貢献しており、また、そのために、購買力を強めていることも確かであるが、それが真に主婦自身や家族の生活向上に役立っているかどうかは疑問視する向きもあり、<sup>2)</sup> 主婦の就業については十分研究する必要がある。また主婦が人間として、能力を発揮するための生き方や、余暇の使い方なども一つの生活課題になっている。その背景には主婦自身の生活観が伏在すると思うが、主婦の就業問題は政治的配慮や社会措置、家族の理解と協力など、諸側面から研究を進める必要がある。

そこで著者らは、まず中高年主婦自身の立場から、主婦の就業問題を考えることとし、主婦の生きがい観や生活観に加えて、勤労に対しての意識調査を行い、家庭経営学的にアプローチしようとするものである。

また著者らは先に女子学生の勤労観について報告し、<sup>3)</sup> 続いて、塩原、酒井らは男子学生の勤労観について報告した。<sup>4)</sup> これらの報告では、将来、家庭の経営を担当する重要な立場にある人達の勤労観について、その傾向を知ることができた。本報では、現に家庭経営管理者としての立場にある中高年主婦に視点を当てようとしたものである。この種の調査としては、女性の職場へ<sup>5)~8)</sup>の進出の問題や、余暇に関する問題についてのものなど、部分的に行われたものが多い。勤労に関して広範囲にわたって調査を行ったものとしては、NHKの「日本人の勤労観に関する世論調査」<sup>9)</sup>があるに過ぎない。そこで著者らは、男女学生に引き続いて、中高年主婦の勤労観について、男女学生の調査と一部を除いて同じ内容について実態調査をし、女子青年層およびNHKの全国調査との比較をしながら、中高年主婦の勤労観の特徴を明らかにすることを目標とするものである。

なお、中高年とは、30歳代から50歳代までとし、30歳代から44歳までを中年、45歳から50歳代までを高年と仮定した。それは、ファミリー・サイクルからみて、子どもが義務教育期をおえるまでの位置にあるものを中年と考え、子どもが義務教育期をおえ、独立期に入っているものを高

年とみる立場をとったからである。また、現在の中高年の主婦の中には、学習歴からみて二つの層がある。すなわち、主として集団優先の戦前の教育を受けたものと、主として個人優先の戦後教育を受けたものとである。先の区分によれば、概して戦後の教育を受けたのが中年層で、戦前の教育を受けたのが高年層である。ゆえに、中高年主婦の勤労観を研究するに当っては、年齢的に中年と高年に分けて考えることも必要である。

また、先にのべたように、最近是有職主婦が増加の傾向にあるが、有職主婦は無職の主婦にくらべて、報酬の有無、生活時間に対する制約の多少、社会的経験の質の違いなどがあるので、両者の間には、ある程度の勤労観の違いがあると考えられる。

したがって、次のような仮説を立て、この調査研究を行うことにした。

仮説…中高年主婦の勤労観は、青年層より意欲的、現実的、客観的である。中でも戦後の教育を受けた主婦は、戦前の教育を受けた主婦よりも、より自己実現志向的であり、有職主婦は無職の主婦よりも、より意欲的、批判的である。

## 2. 調査方法

調査対象地区は、さまざまな考え方を持つ人びとが集っていると推測される大都市圏に焦点をあてることにした。大都市圏としては、関東地区と関西地区を代表として選び、関東地区からは市川市（東京駅より電車で20分のところ）およびその周辺を、関西地区からは大阪市およびその周辺を選んだ。対象者は前者の場合は和洋女子大学3.4年生で家政系自宅通学者、同短期大学2年生で、同じく家政系自宅通学者、並びに付属中学校2年生などの母親全員をあてた。後者の場合は金蘭短期大学1.2年生で家政系自宅通学者の母親全員と大阪府立夕陽丘女子高等職業訓練校生の主婦、および高槻市の婦人会員の一部をあてた。その属性は表1に示す通りである。

調査方法は、男女学生の勤労観の調査に用いたものと、一部項目を増やした他は全く同様（生きがいの対象に「子や孫の成長」の項目挿入）の質問紙を用い、学生、生徒の場合は学生、生徒を通じて母親に配布し後日学生、生徒を通じて回収した。その他の場合は著者らが直接面接して手渡し、その場で回収した。市川市およびその周辺の場合は472名分を回収し、有効率は97.7%であった。大阪市およびその周辺の場合は614名分を回収し、有効率は97.3%であった。

調査時期は昭和52年から53年にかけて行った。

表 1 対象者の属性

年齢	地域	市川市とその周辺		大阪市とその周辺		計
30 歳代		81 (人)	17.2 (%)	128 (人)	20.8 (%)	554 (人)
40 ~ 44 歳		161	34.1	184	30.0	
45 ~ 49 "		161	34.1	166	27.0	532
50 歳代		69	14.6	136	22.2	
計		472	100.0	614	100.0	1,086

職業	地域	市川市とその周辺		大阪市とその周辺		計
無職者		233 (人)	49.4 (%)	303 (人)	49.3 (%)	536 (人)
有職者		239	50.6	311	50.7	550
計		472	100.0	614	100.0	1,086

## 3. 結果および考察

調査結果は表2に示す通りである。

表 2 調査結果一覧

(( ) 内…人数 数字…%)

質問事項	答	中高年主婦					NHK 全国調査	女子青年層
		年代		職業		計		
		中年	高年	無	有			
		(554)	(532)	(536)	(550)	(1,086)		
1. くらし向き	とても苦しい	1.8	2.2	1.9	2.2	2.0	12.5	3.7
	少し困る	17.9	15.8	16.6	17.1	16.9	40.2	19.5
	少しゆとり	66.4	66.4	66.1	66.7	66.4	41.9	50.8
	豊か	9.7	8.8	10.4	8.2	9.3	4.1	11.7
	わからない	4.2	6.8	5.0	5.8	5.4	1.3	14.3

質問事項	答	中高年主婦					NHK 全国 調査	女子 青年 層
		年代		職業		計		
		中高年		無	有			
		(554)	(532)	(536)	(550)	(1,086)		
※ 2. 生きがいの対象	仕事・勉強	8.3	7.1	3.5	11.5	7.7	10.0	2.4
	家庭	18.4	15.7	19.5	15.1	17.2	14.4	4.1
	子や孫の成長	11.7	16.7	13.7	17.5	14.2	21.9	—
	趣味など	10.9	12.9	14.0	9.3	11.9	9.5	26.4
	人とのつき合い	3.7	5.5	5.4	3.5	4.5	6.0	25.8
	社会奉仕	1.9	2.6	2.2	2.1	2.2	2.7	0.9
	信仰	11.0	12.1	11.4	11.1	11.5	3.3	0.9
	毎日の生活	18.0	13.2	14.7	15.9	15.7	23.3	9.0
	自己の向上	3.9	2.1	2.8	3.1	3.0	6.5	13.6
	その他	0.5	1.0	0.4	0.9	0.7	0.2	3.6
※ 3. 生活の規範	ない	1.2	1.3	0.8	1.7	1.3	1.6	6.6
	わからない	10.5	9.8	11.6	8.3	10.1	0.6	6.7
	のんびり暮らす	14.7	19.5	18.2	15.8	16.9	17.7	22.8
	自分を大切に	14.3	16.6	14.9	16.0	15.4	14.8	17.4
	人にまけないよう	1.4	2.5	1.7	2.3	1.9	4.6	2.1
	質素に暮らす	10.6	13.3	12.5	11.4	12.0	14.0	4.2
	苦しくても努力	23.3	18.4	19.2	22.5	20.9	19.6	25.8
	人のことを考える	1.4	1.7	1.0	2.0	1.7	3.9	2.5
	まとまりを大切に	21.8	15.8	19.9	17.8	18.9	11.1	9.9
	ゆずり合う	8.2	9.3	9.0	8.5	8.7	13.5	6.1
4. 意欲 労働	その他	0.7	0.2	0.6	0.3	0.5	0.2	2.7
	とくにない	2.5	1.7	2.2	2.0	2.1	0.3	4.1
	わからない	1.1	1.0	0.8	1.4	1.0	0.3	2.4
	人より多く働く	23.3	14.5	14.2	23.6	19.0	28.3	9.6
労働	人並で十分	69.8	80.0	78.0	71.9	74.8	69.9	79.3
	わからない	6.9	5.5	7.8	4.5	6.2	1.8	11.1
	遊んで暮らす	9.2	7.1	9.7	6.7	8.2	7.8	17.4

質問事項	答	中高年主婦					NHK 全国調査	女子青年層
		年代		職業		計		
		中高年		無有				
		(554)	(532)	(536)	(550)	(1,086)		
欲求	仕事をしたい	74.2	71.1	67.5	77.5	72.6	89.4	61.3
	わからない	16.6	21.8	22.8	15.8	19.2	2.8	21.3
5. 仕事をもつ意味	※生活維持のため	44.5	45.2	45.3	44.2	44.8	44.8	61.3
	人として当然	14.2	22.0	15.1	20.9	18.0	22.0	7.0
	能力発揮のため	14.5	9.1	13.4	10.4	11.8	5.0	12.4
	社会人の役割	24.3	20.2	22.0	22.6	22.4	26.8	14.7
	その他	1.2	1.7	2.1	0.8	1.4	0.2	2.6
	わからない	1.3	1.8	2.1	1.1	1.6	1.2	2.0
6. 収入能力発揮か仕事の収入か	収入	5.4	6.0	6.0	5.5	5.7	18.9	5.5
	どちらか収入	14.4	12.0	12.7	13.8	13.3	13.4	17.1
	能力発揮	58.6	60.2	60.4	58.2	59.3	22.0	52.8
	どちらかといえば能力発揮	17.1	15.6	16.2	16.5	16.4	41.7	17.0
	わからない	4.5	6.2	4.7	6.0	5.3	4.0	7.6
	収入か世間の評価か	6.3	4.9	5.0	6.2	5.6	19.7	5.4
7. 勤めは徳か	収入	12.3	11.5	11.6	12.2	11.9	16.9	16.3
	世間の評価	55.0	51.8	53.5	53.4	53.5	23.0	44.8
	どちらかといえば世間の評価	13.2	14.1	14.2	13.1	13.6	35.1	13.0
	わからない	13.2	17.7	15.7	15.1	15.4	6.3	20.5
	そう思う	51.7	54.3	52.7	54.6	52.9	65.2	32.8
働に報わられるかい	そうは思わない	9.9	9.8	9.1	9.8	9.9	22.8	14.9
	どちらとも、わからない	38.4	35.9	38.2	35.6	37.2	12.0	52.3
	そう思う	57.4	57.9	55.6	59.6	57.6	74.2	41.8
日本働はすぎ	そうは思わない	12.5	13.5	12.5	13.5	13.0	18.7	21.3
	どちらとも、わからない	30.1	28.6	31.9	26.9	29.4	7.1	36.9
	そう思う	42.8	37.4	38.8	41.4	40.1	52.5	39.3
	そうは思わない	32.1	30.8	33.8	29.3	31.5	35.2	26.4
	どちらとも、わからない	25.1	31.8	27.4	29.3	28.4	12.3	34.3

質問事項	答	中高年主婦					NHK 全国調査	女子青年層		
		年代		職業		計				
		中年	高年	無	有					
		(554)	(532)	(536)	(550)	(1,086)			(2,618)	(1,098)
8. ※ 余暇の意味と活用	体を休める時間	29.6	33.0	30.2	32.5	31.3	43.4	30.3		
	遊び楽しむ "	20.8	20.3	19.3	21.8	20.5	22.3	28.4		
	自己向上の "	32.5	26.9	31.1	28.3	29.7	16.8	22.4		
	人との付き合いの "	9.9	12.5	11.9	10.5	11.2	13.3	13.0		
	社会奉仕の "	3.4	3.7	3.7	3.4	3.6	2.4	0.6		
	その他	2.7	1.4	2.2	1.8	2.0	0.3	4.2		
	わからない	1.1	2.2	1.6	1.7	1.7	1.5	1.1		
	自由日	活用できる	62.9	62.9	61.0	64.7	62.9	49.0	43.3	
		もて余す	26.5	21.1	23.3	24.4	23.8	45.1	39.9	
		わからない	10.6	16.0	15.7	10.9	13.3	5.9	16.8	
	9. 余暇の過ごし方の評価	個性がない	そう思う	44.9	43.1	44.2	43.8	44.0	61.7	48.4
			そうは思わない	23.3	21.6	23.9	21.1	22.5	24.4	20.3
どちらとも、わからない			31.8	35.3	31.9	35.1	33.5	13.9	31.3	
一時的		そう思う	45.6	46.8	46.9	45.7	46.2	68.8	41.1	
		そうは思わない	23.5	20.9	21.6	22.7	22.2	17.0	20.7	
		どちらとも、わからない	30.9	32.3	31.5	31.6	31.6	14.2	38.2	
ゆとりがない		そう思う	53.2	44.7	45.4	52.7	49.1	66.2	52.7	
		そうは思わない	23.3	24.8	25.7	22.4	24.0	23.8	23.3	
		どちらとも、わからない	23.5	30.5	28.9	24.9	26.9	10.0	24.0	
手軽に楽しむ		そう思う	64.6	59.2	61.8	62.2	62.0	75.1	63.6	
		そうは思わない	14.8	16.2	14.7	16.2	15.5	13.9	12.4	
		どちらとも、わからない	20.6	24.6	23.5	21.6	22.5	11.0	24.0	
派手		そう思う	26.5	32.3	28.0	30.7	29.4	44.5	26.5	
		そうは思わない	41.6	36.5	39.4	38.8	39.0	42.6	35.4	
		どちらとも、わからない	31.9	31.2	32.6	30.5	31.6	12.9	38.1	

※印……複数回答の項目(この場合%は度数で除して出した)

### 1) 暮らし向き

勤労観の調査に当っては、まず対象者の暮らし向きの程度を知る必要がある。そのために、暮らし向きについての実感を調査した結果、中高年主婦全体と全年代層の男女を含むNHK調査との間や、女子青年層（女子学生・一般女子1,098名、以下同じ）との間に有意差（ $\chi^2$ 検定により5%水準で有意差があったものをいう。以下同じ）があり、本調査による中高年主婦の方が、いずれよりもゆとりを感じているものが多かった。また、中年者と高年者との間、および有職者と無職者との間には有意差はみられなかった。これらのことを前提として、本調査の各項目について検討していく必要があるものとする。

### 2) 生きがいの対象

生きがいをなにに求めているかを知ることは対象者の勤労観を考察する上できわめて重要であると考え、調査項目に入れたものである。

調査結果としては、NHK調査や女子青年層との間、中年者と高年者との間、有職者と無職者との間など、すべてに有意差がみられた。中高年主婦としては、家庭、毎日の生活、子や孫の成長などを生きがいとするものが多かった。これらの点は率の差はあるが、NHKの調査に似ており、女子青年層と異なっているところである。また、家庭そのものや、子・孫の成長を生きがいの対象とするなど、家庭志向型も多いが、毎日の生活や趣味などに生きがいを求めている自己実現志向型もあるところに中高年主婦の特徴があると言えよう。また本調査では信仰に生きがいを求めている人がかなり多く、このことはNHK調査や女子青年層とも異なっている点で、中高年主婦の責任ある立場として、なにかを求めている一面を現わしているものであろうか。

また、年代別では、中年者は高年者よりも家庭そのものに生きがいを感じているものが多いが、高年者は子や孫の成長にこれを求めているものが多い。また中年者は毎日の生活に生きがいを感じているものが高年者よりも多い。これをみると、中年者には積極性が感じられ、高年者にはゆとりが感じられる。

就業の有無別では、無職者は家庭そのものに、有職者は子や孫の成長に生きがいを求めている傾向が強い。これは、その置かれた立場から生ずる自然の要求の結果とみることができよう。

### 3) 生活の規範

生活はどうすべきであると思うか、という問いに対しては、NHK調査や女子青年層との間、および中年者と高年者との間に有意差が認められたが、有職者と無職者との間には有意差は認められなかった。中高年の主婦の場合、苦しくても努力すべきであるとするものが最も高率であるが、これはNHK調査や女子青年層の場合も高率であるところからみて、日本人の通有性とみることができよう。次に高率を示している、まとまりを大切にすべきである、とするものはNHK調査や



女子青年層よりも非常に高率であった。これは家庭の経営責任者として、家族の生活と平和を維持する責任を持っている中高年主婦の立場の特徴がよく表われていると思われる。

また、年代別では、中年者は、苦しくても努力すべきであるとするもの、まとまりを大切にするというものが高年者よりも多く、その反面、高年者の方がのんびり暮らすべきであるとするものが多くなっている。これらは、ファミリー・サイクルからみて、子どもの教育期の立場にあるものと、子どもの独立期を迎えた立場にあるものなど、それぞれが置かれている年代の周期の相違がよく表われていると思う。

#### 4) 勤労意欲の程度と働く欲求

働くことについてどう思うか、また、一生暮らせる金があればどうしようと思うか、という問いに対しては、NHK調査や女子青年層との間、有職者と無職者との間に有意差が認められた。中年者と高年者との間には、勤労意欲の程度にのみ有意差が認められた。中高年の主婦としては、積極的に働こうとする意欲の程度はNHK調査よりも低く、女子青年層よりは高いという結果が出ていた。また、一生暮らせる金があったとしても仕事をしたいとする積極的な姿勢についても同様の傾向を示していた。すなわち、勤労意欲や欲求については、仕事はしたいが、人並に働くことで十分と考えていることが、中高年主婦の特徴と言えよう。

年代別では、中年者の方が高年者よりも勤労意欲の程度は高かった。就業の有無別では、有職者の方が無職者よりも、人より多く働きたいとするものが多かった。また勤労欲求についても有職者の方が高くなっていて、両者の勤労に対する心構えや考え方の違いを明白に表わしていた。

#### 5) 仕事を持つ意味

人が仕事を持って働くのは何のためか、という問いに対しては、NHK調査や女子青年層との間、中年者と高年者との間、有職者と無職者との間など、すべてに有意差が認められた。中高年の主婦としては、仕事を持つ意味を生活維持のためと現実的に単純に考えているものが半数近くをしめていた。これはNHK調査と同傾向であるが、女子青年層よりは低率となっている。また、社会人の役割であると使命感的に考えているものはNHK調査よりは少ないが、女子青年層よりは多くなっている。また、個人の能力発揮のためと考える自己実現志向型のもは、NHK調査よりも多く、女子青年層と類似した傾向を示していた。

年代別では、生活維持のため、社会人の役割であると考えているものは大差はないが、仕事を持つのは人として当然であると考えているものは高年者により多く、自己の能力発揮のためと考えるものは中年者に多かった。これらの違いは戦前に道義や全体を強調する教育を受けたものと、戦後に個人を重視する民主的な教育を受けたものとの違いではないだろうか。

就業の有無別では、能力発揮のためと考えるものは無職者にやや多く、人として当然と考える

ものは有職者に多いという違いが出ていた。これは、無職者は就業することができれば自己の能力発揮ができるだろうという、秘められた自己の欲求の現われであり、有職者の方は就業の体験から、仕事を持つことは人として当然であると認識するに至った人がある程度あったためではないだろうか。

#### 6) 仕事の選択

新しい仕事につくとしたら、収入の多い仕事か、能力を生かせる仕事か、また世間の評価の高い仕事か、などについての調査結果をみると、NHK調査や女子青年層との間のみ有意差がみられた。中高年の主婦としては、収入よりも能力が生かせる仕事を選びたいとするものが半数を越えており、また、収入よりも世間の評価の高い仕事を選びたいとするものが半数以上あって、ともにNHK調査にくらべれば、かなりの高率をしめしていた。また女子青年層にくらべてみても、やや高率で、中高年主婦の場合は、仕事を選択するに当っては、能力が生かせるということと、世間の評価が高い仕事であるということに強い関心を持っているという特徴が出ていた。これらは、くらし向きの項目で明らかのように、この調査対象者は概して生活にゆとりがある人が多かったためではないかと推測される。

#### 7) 勤勉について

①勤勉は美德である ②一生懸命働けば報われる ③日本人は働きすぎか、の3項目についての調査結果をみると、NHK調査や女子青年層の間には、各項目ともに有意差は認められなかったが、年代別では、③の項目のみ有意差が認められた。無職者と有職者との間には有意差は認められなかった。これらの結果をみると、中高年主婦の場合は、NHK調査と女子青年層との中間的考え方になっている。すなわち、①、②、③の項目とも、それぞれこれを肯定しているものが最も多いが、その割合は、いずれもNHK調査よりも低率であり、いずれも女子青年層よりは高率である。また、どちらとも判断しかねているもの、わからないと答えているものの割合をみても、両者の中間的数値を示している。

また、年代別では、日本人は働きすぎと考えているものは中年者に多く、高年者の場合はやや減じている。ここにも戦前の教育を受けたものと、戦後の教育を受けたものとの考え方の違いが出ていたものと考えられる。すなわち、戦後の教育を受けた中年者の場合も戦前の教育を受けた高年者の場合も働くことは美德と考えているが、自己の生活を犠牲にしてまで働きすぎることについては、疑問視する程度の違いが年代的に出たものと考えられる。それは中年者の場合、生きがいとして、「毎日の生活」をあげていたものは高年者よりも多かったし、また、勤労意欲を見ても、「人より多く働きたい」としたものが高年者よりも多かったことなどと考え合わせてみても理解できることではないだろうか。

## 8) 余暇の意味と活用

10)

余暇規定にはいろいろあるが、余暇とは本来どのようなことに使う時間であるか、また自由に使える日数が10日間あるとしたら十分活用できるか、という問いに対して、その結果をみると、NHK調査や女子青年層との間、中年者と高年者との間には有意差が認められ、無職者と有職者との間には有意差は認められなかった。中高年の主婦の場合、余暇の本来の意味については、体を休める時間と答えた人が最も多かった。この点はNHK調査や女子青年層と同傾向であった。次に多かったのは、自己の向上をはかる時間と答えた人であったが、NHK調査や女子青年層では、遊び楽しむ時間と考えている人が多かったという違いが出ていた。中高年主婦の場合、自己向上に対する意欲の強さがうかがえた。また、自由日の活用についても中高年主婦の場合、活用できると意欲的に答えた人が半数以上あって、NHK調査や女子青年層よりも高率であった。このことは先にのべた余暇の解釈と矛盾するところではなかった。

年代別では、余暇の本来の意味を、遊び楽しむための時間と考えている人は高年者に多く、自己向上のための時間と考えている人は中年者に多いという違いが出ていた。このことは中年者の場合、前にのべたように、生活規範については「苦しくても努力すべきである」とするもの、また、仕事をもつ意味については「能力発揮のため」とするものなどが高年者よりもかなり多かったことなどと矛盾することはなく、余暇の解釈についても中年者は高年者よりも、より意欲的で積極的な姿勢を持っている人が多いことが分った。

## 9) 余暇の過ごし方の評価

最近の人の余暇の過ごし方をみてどう思うか、①個性がなく、みな同じような過ごし方をしている。②自分を見つめたり、向上させることより、一時的な楽しみを求めている。③余暇を楽しむにも、ゆとりがなくせかせかしている。④苦勞して何かを作り出したり、求めたりするよりも、手軽なことに楽しみを見出している。⑤質素に過ごすより、金をかけ、派手な余暇を楽しんでいる。これらの問いに対して、その結果をみると、NHK調査との間では全項目に有意差が認められ、女子青年層との間では①②⑤の項目に、年代別と就業の有無別では、ともに③の項目のみに有意差が認められた。

中高年主婦とNHK調査を比較してみると、全項目にわたって、中高年主婦の方が問いに対する肯定者の割合が低率になっており、どちらとも判断しかねていたり、わからないとするものの割合は高率になっているという違いがあった。また、女子青年層と比較してみると、①の項目では女子青年層の方に肯定者が多く、②⑤では肯定者も否定者も中高年主婦の方がやや高率という違いが出ていた。これらのことから、中高年の場合は、知識や経験が豊かになり、社会現象を一面的に考えるのではなく、かなり客観的、批判的にみることのできる人が多かったため、このよう

な結果が出たのではないかと推測できる。このことは、女子青年層において、いずれとも判断しかねているもの、わからないとするものが相当多かったことと考え合わせてみても推測できることである。

年代別では、③の項目について、中年者は高年者よりも肯定するものの割合が高率で、その反面、いずれとも判断しかねているもの、わからないとするものの割合が低率であるという違いがあった。このことは就業別でも同様で、有職者は無職者よりも肯定するものの割合が高率で、いずれとも判断しかねているもの、わからないとするものの割合が低率になっていた。これらの結果は先にのべたと同様の理由によるもので、ここでは、年齢の違い、自分の置かれている環境の違いなどからくる知識、経験の違いが異なる評価結果として表われたものと考えられる。

なお、余暇の評価は、各自の勤労観が尺度となって行われたものと考えられるので、以上の調査結果から中高年、特に中年者の勤労観はかなり堅実なものがあることが推測できた。

#### 4. 要 約

本報では、中高年主婦の勤労観について、緒言に記したような仮説を立て、調査を試みた。その結果を要約すれば次の通りである。

1) 中高年主婦の勤労観は、本調査による限りでは、NHKの全年齢層を含む調査結果や、著者らが行った女子青年層の調査結果と比較してみると、女子青年層よりも意欲的で積極的な姿勢がみられたが、NHK調査の結果には及ばなかった。また、NHK調査の結果よりも自己実現志向型が多く、この点は女子青年層に近かった。さらに、勤勉型も多かったが、NHK調査の結果にみられる程ではなく、かなり批判的な姿勢がみられた。

2) 中高年主婦の中では、中年主婦が高年主婦よりも意欲的で、また、自己実現志向型が多かった。

3) 同じく中高年主婦の中では、有職者の方が無職者よりも意欲的で、勤労を客観的に捉えているものが多かった。

以上のように、この研究は、あくまで大都市圏にある二地区を選んでの事例研究に過ぎないが、この調査によって、ある程度、中高年主婦の勤労観の特徴や傾向をつかむことができた。また、仮説は一応検証できたと考えている。今後さらに、中高年男女の勤労観の比較や、老年男女の勤労観とその比較などについて研究を進め、中高年主婦の勤労観についての特徴をさらに明白にしたいと考えている。

最後に、この調査にご協力いただいた多くの方がたに心から感謝する。

## 引用文献

- 1) 婦人に関する諸問題調査会議（総理府）：現代日本女性の意識と行動，大蔵省印刷局，東京，198（1974）
- 2) 中鉢正美編，前田正久，湯本和子，松村祥子：家族周期と家計構造，（共働き家計の分析），至誠堂，東京，92～96（1971）
- 3) 酒井ノブ子，篠原冬：家政誌，29（6）62（1978）
- 4) 塩原秀子，酒井ノブ子：家政誌，33（9）55（1982）
- 5) 日本地域開発センター：日本人の価値観，至誠堂，東京，14～17 43～46（1974）
- 6) NHK放送世論調査所：現代日本人の意識構造，日本放送出版協会，東京，80～103（1979）
- 7) 経済企画庁余暇開発室：余暇社会への構図，大蔵省印刷局，東京，16（1973）
- 8) JABC，余暇問題研究会：ブルーカラーの余暇観，至誠堂，東京，20（1974）
- 9) NHK放送世論調査所：日本人の勤労観に関する世論調査，1～48（1974）
- 10) 生活科学調査会：余暇，ドメス出版，東京，110（1972）